

経営比較分析表（平成29年度決算）

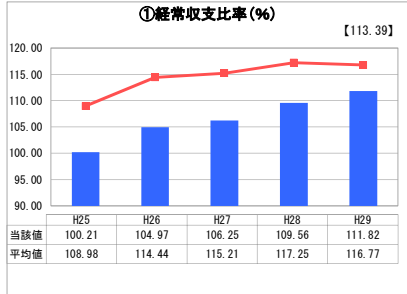
兵庫県 西宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.09	99.98	2,727	

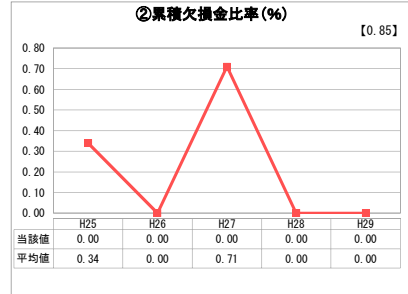
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
485,225	99.96	4,854.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
484,039	73.49	6,586.46

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

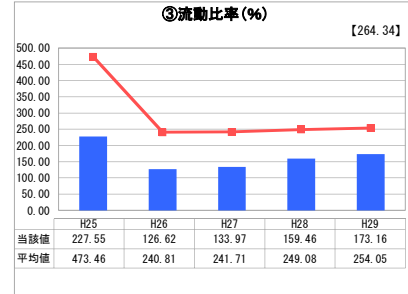
1. 経営の健全性・効率性



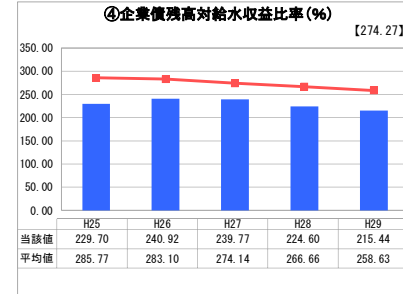
「経常損益」



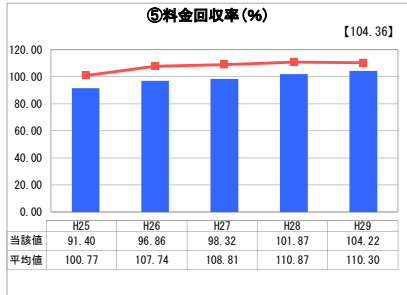
「累積欠損」



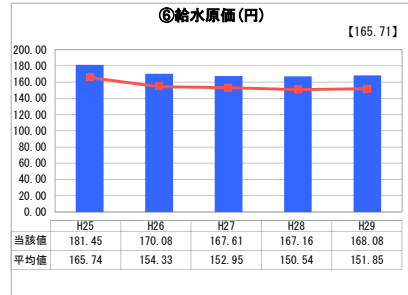
「支払能力」



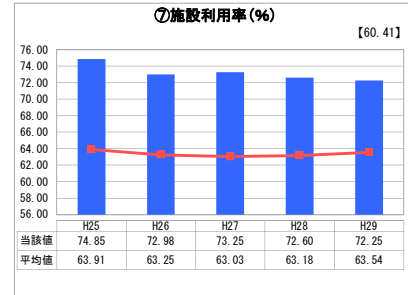
「債務残高」



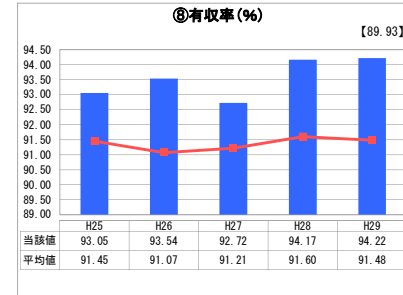
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

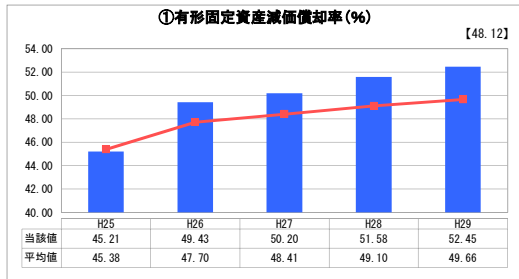


「施設の効率性」

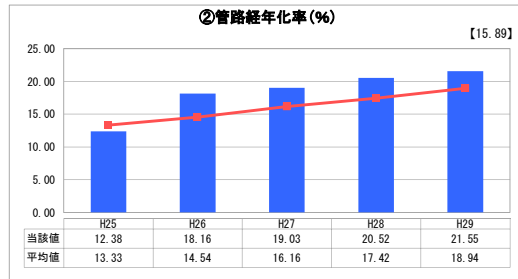


「供給した配水量の効率性」

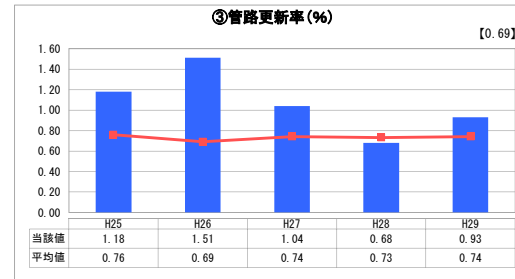
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市は、平成16年度より浄水場の統廃合をはじめ施設能力の適正化を図ってきたため、施設利用率は高く、また、管路の維持に努めた結果、有収率も高い状況にあることから、施設の効率性は良好といえる。

平成28年度に料金改定を実施したことなどにより、料金回収率・経常収支比率・流動比率は改善しているが、平均値を下回っており、給水原価も平均値に比べ高いことから、引き続き経営改善・経営基盤強化に努める必要があるとされている。

また、本格的な更新・耐震化工事が始まったばかりであることや、阪神・淡路大震災時に発行した多額の企業債の償還に取り組んできた結果、企業債残高対給水収益比率は他市に比べて低くなっているが、平成29年度には人口が減少に転じており、企業債残高の削減を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を用いた管路経年率からは老朽化が進んでいるといえるが、アセットマネジメントを実施した結果、1.25%/年の更新を行うことで管路は概ね良好に保つことができると判断し、現在管路の耐震化・老朽化対策工事を計画的に進めている。

全体総括

本市は平成27年度に経営戦略（「西宮市水道事業ビジョン2016」・「投資・財政計画」）を策定するとともに、平成28年度に料金改定を実施し、水道事業を平成40年度まで継続していくための資金を確保した。

今後も引き続き、計画的に水道施設の耐震化・老朽化対策を進めるなど、経営戦略において必要とした施策・事業を着実に実施するとともに、進捗状況等の把握にも努め、「投資・財政計画」以上の費用削減とさらなる財政基盤の強化に繋がる施策を推進していくことが求められている。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。